

令和3年2月10日
新潟県立自然科学館

令和2年度 全国科学館連携協議会 北信越ブロック会議 実施報告

表記の件につき、下記の通りご報告いたします。

記

I. 日時

令和3年2月3日（水） 14:00～15:30

II. 開催方法

オンライン会議（zoom 使用）

III. 参加館

北信越ブロック加盟館 13館 19名、連携協事務局3名 計22名

IV. 次第

- 開会挨拶
- 参加館 確認・挨拶
- 議事／事前アンケートを基にした意見交換
 - ・科学教室事業について
 - ・連携事業について
 - ・新型コロナウイルス感染症の対策・運営について
 - ・その他 質疑、情報共有事項等
- 連携協事務局からのお知らせ
 - ・1月20日実施の国内研修について
 - ・巡回展示物についての連絡
 - ・連携協 HP リニューアル作業中（今年度末に公開予定）
 - ・展示物製作の助成金について（1館20万円まで）
- 閉会挨拶

V. 議事内容

今回の会議は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンラインでの開催となったため、事前に議事内容に関するアンケートを実施した。各館の活動から特徴的・独自性のある内容について幹事館で任意に抽出し、数館より詳細について解説いただき、情報共有と質疑を行った。

※事前アンケート結果は添付を参照のこと。

1. 科学教室事業について

1) 上越科学館： “観覧者参加型ではない”サイエンスショーについて

7月からショーを再開しており、観覧者の密を避けるために席数を減らして実施している。

演示台にはアクリル板（高さ1m程度のもの）を設置し、演者はこれまでピンマイクを使用していたが、飛沫対策のためにヘッドセットに変更し、より近くで音声を拾えるようにしている。

最近では参加型も実施しており、その場合は演示スペースの脇に消毒液を設置し、手指を消毒していただいてから体験してもらうことで対応している。

2) 福井県児童科学館：サイエンスショー『サイエンスクッキング』

サイエンスクッキングは「家の中にある身近なものを利用すること」「親子で体験できるもの」という2点を大事にして企画したイベントである。これまでに以下のような実験を実施した。

- ・レモン汁を食パンに塗ってから焼いて絵を浮き上がらせる実験
- ・スライスチーズを加熱し、水分を飛ばしてカリカリにする実験
- ・クエン酸と重曹で炭酸ジュースを作る実験

小さい子供が楽しめるよう、メニューボードを作成したり盛り付けを工夫したりするなど、店の雰囲気を出すように工夫している。

館のYou Tubeでポップコーン実験の動画を配信している。

2. 連携事業について

1) 富山市科学博物館：連携事業『高校生が作ったロボットで遊ぼう』

平成22年より県内の市内にある私立の工業高校と連携している事業（今年は感染症の影響により中止）。

工業高校の生徒が製作したロボットを展示しており、観覧者対応や故障対応も生徒自身が行っている。小学生にとっては館スタッフよりも年齢が近いこともあってか構えることなく楽しみながら高校生と接している様子が見られる。また、高校生も積極的に来館者とコミュニケーションをとれている。

館側は高校生への声掛けを行う程度であり、基本的には見守りに徹している。

Q: 学校との連携の場合、事業を担当している先生が代わってしまうと継続が難しくなることが多いが、どのように継続を行っているのか。(サイエンスヒルズこまつ ひとつものづくり科学館より)

A: 事業開始当初は私立高校の他に県立高校も一緒に参加していたが、数年後に県立高校は連携から外れてしまった。現在連携を継続している高校は私立であり、担当教員が長年在籍しているため継続できている。

- 2) サイエンスヒルズこまつ ひとつものづくり科学館 : 連携事業講座『珠玉の科学』
次年度4月から募集を行い、小学校4年生以上を対象に、現地集合で実施予定。
小松市で行われてきた石の文化を広げる取り組みが平成28年に日本遺産に認定されたこと、館の所在地も遺跡があった場所であることから、館として石文化を広めていこうと考え計画。

3. 新型コロナウイルス感染症の対策・運営について

- 1) 上田創造館 : 『キッズフェアおうちでリフォーム』

在宅でできる参加型のワークショップ。地元企業にミニサイズの家具パーツを提供していただき、パーツを組み合わせて部屋作りを行う体験。

キットはドライブスルー方式で配布し製作は在宅で行い、出来上がった作品は写真ネット回線で送ってもらう方法にした。

1日100セットを用意し4日間実施したが、当日先着順としたことで過去にないくらいの希望者が殺到し、駐車場が大混雑となった。

館再開後に実施しているワークショップでは家族ごとが密にならないよう間隔を空けて席を設けて行っている。

- 2) 感染症対策についての課題(質疑応答)

Q: 上越科学館より

次年度のGW期にイベントを検討しているが、このコロナ禍では対面式が難しいと考えており、対策や方法を検討している。他館ではどのような工夫や取り組みを考えているか。

A: sakumo 佐久市子ども未来館

子ども同士や、スタッフとの交流も体験のひとつと捉えていることから、少人数で感染防止をしっかりと行い、今まで通り実施している。子供たちが今しかできない体験・交流を提供できるようにできる方法で行っている。

A: 上田創造館

例年GWや8月などの集客期のイベントは自由に体験してもらっているが、次年

度は事前申し込みをしたいと考えている。

Q：上越科学館

マスクをしない子供がいる。スタッフが声掛けをしているが難しい。子供たちが積極的にマスクをしたくなるような案があれば聞きたい。

A：※他館ではマスク着用に協力的な来館者が多く、同種の悩みはない。

4. その他 質疑、情報共有事項等

1) 富山市科学博物館 新規展示「振り子のサンドアート」の紹介
リサージュ図形を描く展示装置を製作し、今年8月展示開始。

2) sakumo 佐久市子ども未来館より

Q：評価について

指定管理者制度を取り入れている館の場合、人数で評価されている。しかし今年には感染症の影響により休館したり、イベントでも参加者を制限したりしなければならない。反面、当館ではコロナ禍で開館時間を短くしたことでスタッフ1人1人が子供と向き合う時間が多くなり、よりスタッフが楽しみながら向き合っている姿が見られ、質が上がったように考えている。指定管理でも質で評価してもらえようになったら良いと考えているが、他の館の意見を聞きたい。

A：上越科学館より

指定管理を取り入れる行政は現状の制度運用では経費削減が問題になってしまう。そのため科学館が科学を文化として地域に浸透させていくかなどの本筋を行政に如何に理解してもらうかが重要ではないか。数字ではない結果（来館者評価、外部評価など）で示すことが必要なのでは。

A：富山市科学博物館より

提案として、来館者が中心となっている友の会などに評価してもらうのはどうか。

以上